

【症例要約の記載事項について】

透析条件の記載が最低限必要です。患者に対する倫理的配慮（IC）の経過や患者が特定されないような要約記載，十分な文献検索を含めた考察が必要です。

バスキュラーアクセス作製，剖検，腎移植症例以外は，必ず血液浄化療法条件を記載してください。症例要約は，原則，【主訴】【現病歴】【既往歴】【家族歴】【入院時現症】【入院時検査所見】【入院後経過，透析方法，透析条件】【考察】【文献】で構成してください。

本学会誌には代表的症例要約2例を掲載しています。血液透析装置組み立ておよび操作，バスキュラーアクセス作製，剖検，腎移植などの症例要約は，ホームページ掲載のモデル集を参考にして作成してください。

症例要約記載方法は年齢・性別・診断・原疾患名・主合併症以外の記載に際しては原則として手書きは不可，ワープロ等で記載してください。なお，文字数については2,000文字以内（48文字×42行程度）で，必ず1枚以内で作成してください。

症例要約は申請者が経験した症例について透析療法の観点にたち，容易に判読できるよう記載してください。

書類については日本透析医学会ホームページより，下記手順にてダウンロードしてご使用ください。

専門医制度について → 専門医制度全般 → 「申請書様式（症例要約）」について

専門医診療実績必須症例一覧表の採点欄は事務局記入欄となります。

症例経験施設については，認定施設・教育関連施設欄に○印を入れ，透析施設コードを記入してください。

症例要約18症例すべて認定施設・教育関連施設からのものをご提出ください。

また，他者の症例を流用した場合は失格となります。

用紙は症例ごとにコピーして使用してください。

診療実績必須症例一覧表に各症例分類を経験した施設をすべて記入し，最終の修練施設の教育責任者の印が必要です。証明印は公印でなくて結構です。

A 維持透析症例

維持透析症例については、症例要約 5 症例をご提出ください。

B 慢性腎不全透析導入症例

慢性腎不全透析導入症例については、症例要約 3 症例をご提出ください。

なお、本年度（2017 年度）から、慢性腎不全透析導入症例の要約では、血液透析、腹膜透析、腎移植の 3 つの腎代替療法の選択機会を患者に与えたことを明示してあるかどうかも評価対象となります。

C 急性腎不全血液浄化症例

急性腎不全血液浄化症例については、症例要約 2 症例をご提出ください。

D 腹膜透析症例

腹膜透析症例（含む CAPD）については、症例要約 1 症例をご提出ください。

E 血液透析装置組み立て及び操作症例

血液透析装置組み立て及び操作症例については、症例要約 1 症例をご提出ください。

施行日透析記録用紙のコピーを必ず添付してください。

患者の個人情報は、必ず黒塗りにしてご提出ください。

F バスキュラーアクセス作製症例

バスキュラーアクセス作製症例（助手例も含む）については、症例要約 1 症例をご提出ください。

G 一時的バスキュラーアクセス留置症例

一時的バスキュラーアクセス留置症例については、症例要約 1 症例をご提出ください。

H 透析症例剖検例または死因検討例

透析症例剖検例または死因検討例については、症例要約 1 症例をご提出ください。

病理医が作成した病理解剖診断書（報告書）のコピーを必ず添付してください（各臓器所見の詳しい記録は必要ありません）。

他病院での解剖例や剖検に立ち合った症例、剖検検討会（CPC）への参加症例も認められます。

病理解剖診断書（報告書）の主治医欄に申請者名の記載がない場合は、解剖症例に対する申請書の関わり（共同主治医、透析担当、CPC 出席など）について記載した書面を添付してください。（病理医・教育責任者又は所属長の署名・印が必要となります）

患者の個人情報は、必ず黒塗りにしてご提出ください。

I その他の血液浄化法（血漿交換，吸着，顆粒球除去など）

その他の血液浄化法については、症例要約 2 症例をご提出ください。

J 腎移植症例

腎移植症例，他施設での腎移植術研修，術後診療，情報提供については、症例要約 1 症例をご提出ください。